



大桑 斉先生を偲んで

2020年4月14日に名誉教授の大桑斉先生が逝去された。享年82歳であった。大桑先生は1937年11月19日、石川県金沢市材木町の善福寺に誕生された。金沢大学法文学部史学科国史学専攻を卒業後、本学大学院文学研究科博士課程仏教文化専攻を経て、1969年に文学部助手として奉職された。1974年に専任講師に着任し、1984年には教授となられ、2003年の定年退職まで35年にわたって教鞭をとられた。

ご研究は日本近世の仏教史、思想史、そして真宗史からなり、その成果は『寺檀の思想』をはじめ、『日本近世の思想と仏教』『シンポジウム徳川イデオロギー』『論集仏教土着論』『近世の王権と仏教』『本願寺教如教団形成史論』など、多数の著作として刊行されており、学界に裨益するところは大変に大きい。また、近世仏教研究会や日本宗教史懇話会の活動に尽力すると共に、大谷大学日本史の会代表・仏教史学会会長など学会の要職も務められた。

学生への指導は厳しかったが、その多様な関心に耳を傾け、適切な助言をもって指導にあたられていた。とくに授業での発表の折り、学生が配布した資料を丹念に確認する姿は印象的で、そののち、黒板全体をつかって理論を整理し、歴史的な課題を導き出しいく様子は、先生の頭の中を見ているようで深く感銘を覚えた。公私共どもに賜った御恩に心より感謝を申し上げ、ここに謹んで哀悼の意を表します。

大谷大学教授 平野 寿則